

DX



DXプロデューサー研修

DX推進の基本的な考え方を示す「DX推進方針」と、その行動計画である「DXアクションプラン」を定め、DXを推進しています。これらの方針に基づき、職員のDXリテラシー向上を図るとともに、業務や組織の変革を担う人材の育成を進め、DXの活用を通じて、お客様の利便性向上や職員の業務効率化の実現に取り組んでいます。

DX 施策の推進

事例紹介

賃貸住宅／URくらしのアプリ

令和7年度は、UR賃貸住宅のお客様向けに「URくらしのアプリ」の開発を進め、家賃引落口座の手続きや入居後の補修依頼等を、スマートフォン等から時間や場所を問わず行える仕組みの構築を進めました。これにより、窓口への来所や書類のやり取りを不要とするデジタル手続きの基盤を整備し、お客様の利便性向上と業務効率化に向けた環境を整えました。

本アプリは令和8年度からの利用開始を予定しており、今後、順次機能を追加することで、サービス向上を図ります。こうした取り組みを通じて、安定した賃貸住宅サービスを提供できる体制を構築します。



アプリ画面の一例

事例紹介

生成AIの活用

UR賃貸住宅の営業窓口では、お部屋探しを支援するハウジングアドバイザー向けチャットボットの導入を、令和7年度から全国に拡大しました。これにより、問合せに対する迅速な対応が可能となっています。

また、職員の業務効率化を目的として、Microsoft 365 Copilot Chat を業務で活用できる環境を整えました。利用ルールの整備や情報セキュリティ対策の徹底、職員への周知・教育を行った上で、その活用を進めています。



ハウジングアドバイザーの接客風景

DX 人材の育成

全職員のDXリテラシー向上のための動画研修を実施するとともに、ITパスポートの資格取得を奨励しています。また、デジタルコア人材の候補となる職員を「DXプロデューサー」として認定(98人が活動中)。専門性向上に向けた研修実施等を通じて人材育成を推進しています。

